

No.184
2019
3/9



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



東労組本部申15号 2019年度賃金引上げ等に関する申し入れ

19春闘 第2回交渉!

【組合主張】

- 第3四半期決算では増収増益。人件費は8億減、社員数は5年で4,300人減となったが、営業収益、運輸収入の7期連続の増収は働き度が向上したからだ。組合員の努力のたまものだ。
- 各種施策等から、労働生産性を向上させてベアの原資を創り出してきた。ベアの要素として積み上がっている。報いるべきだ。
- JR東日本の1兆円を超える設備投資は、建設工事部門の努力に支えられている。
- 若手のかんり部会組合員は、下の世代を育てるために頑張っている。頑張った良かっと思える賃金にしていくべきだ。
- 賃金は企業の魅力として高く評価される。社員を大切にしていると認識されるのではないか。

- グリーンスタッフの労働力の価値は正社員と同等だ。各種手当や、寮や社宅などの処遇の差を改善すべきだ。

- 管理手当等の見直しで、課員は残された。企画業務を担う人の苦労は課員も同じだ。処遇の改善は必要だ。

- JR東日本は順調に収益を確保し業績を伸ばしている。十分な支払い能力はある。職場で汗し努力してきた組合員の努力に他ならない。モチベーションを高め、さらなる成長に繋げるため、3月15日までの満額回答を要求する。

【会社主張】

- 社員数減の中での増収は理解している。5年連続のベアの実施で7,000円強になる。労働条件向上で還元してきた。
- ベアの原資が生産性向上の成果であることは議論してきた。認識はずれていない。それ以外も含めて総合的に勘案する。
- 社員数の減少から時間外労働が増えている。法律にも対応が必要だ、CBM導入など働き方そのものから変えていく。
- 優秀な人材確保は必要。昨年初任給5,000円引き上げた。重要な課題であると認識している。
- 基本給は年齢による生活水準、職責、職能がある。職責は従来から、最も重要な構成要素であると考えている。

- 正社員と有期雇用では中長期で見ると同じではなく同列では論じられない。正社員との労働条件に不合理な差は無い。

- 2年前は環境の変化や職責などを勘案した。魅力ある支社の仕事にする重要性は認識するが、一律に手当を付けるとは考えていない。

- 基本給改定の原資は、生産性向上が大きな要素。さらに物価上昇や賃金カーブ等もある。改定方法は職責、職能、資格、等級、年齢などを総合的に勘案する。基本給以外の項目についても議論した。できるだけ早く合意に至るようにしたい。

格差のないベア実現を掲げ、

労働者間格差を許さず、

要求満額獲得に向けてたたかおう!

